

氏名	市川徳和		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	乙第1695号		
学位授与の日付	昭和61年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	脳性麻痺の脊柱側彎について — X線学的調査 —		
論文審査委員	教授 青野 要	教授 寺本 滋	教授 折田薫三

学位論文内容の要旨

香川県立ひかり整肢学園において昭和57年1月から58年3月までの間に脳性麻痺患者の直接検診とX線撮影を行ない、6才以上の175例を対象として脳性麻痺の脊柱側彎の発生頻度及び臨床的特徴を特発性側彎症と比較しながら検討した。

脳性麻痺における側彎は18例（10.3%）の発生頻度で特発性側彎症のそれより高かった。年齢において15才以上群は6～14才群に比して有意の差をもって発生は高く、年齢的増悪が認められた。運動機能面での障害が重度な「寝たきり」に最も多く、bed care 群が67%を占めていた。彎曲度も障害の重度なものでは大きい、軽症・中等症では小さかった。障害部位別としては、四肢麻痺にしか発生しなかった。痙直型四肢麻痺とアテトーゼ型では側彎の発生に有意の差はなかった。

カーブパターンは胸椎型の多い特発性側彎症と異なり、C字状型・胸腰椎型・腰椎型の下位脊椎を含むものが多かった。

論文審査の結果の要旨

本研究は6才以上の175例を対象として脳性麻痺の脊柱側彎の発生頻度及び特発性側彎症と比較検討した。中でも側彎と障害部位、側彎と股関節の関係及びX線学的分析を行っており、此のX線学的分析では、カーブパターン、角度、頸椎の回旋度及び骨盤傾斜について施行しており、カーブパターンを移動能力で検討すると胸椎型、胸腰椎型では障害が中等度から軽度のものに多いが、腰椎型C字状型ではbed care 群に障害の重いものが多かったとしている。此等の所見は今後の脳性麻痺患者の治療上でも有用な知見であり、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。